

令和3年度
群馬県キャリア教育研究大会
実践発表 小学校特別活動部会
館林市立第十小学校
発表者 久木原 悠太

～学校概要～

【児童数543名】

【学級数23】

各学年3学級

知的2学級

情緒3学級

日本語学級

みどり学級

(LD・ADHD等通級指導教室)



館林市立
第十小学校



I 教育目標

ゆめ なかよし げんき

II めざす子どもの姿

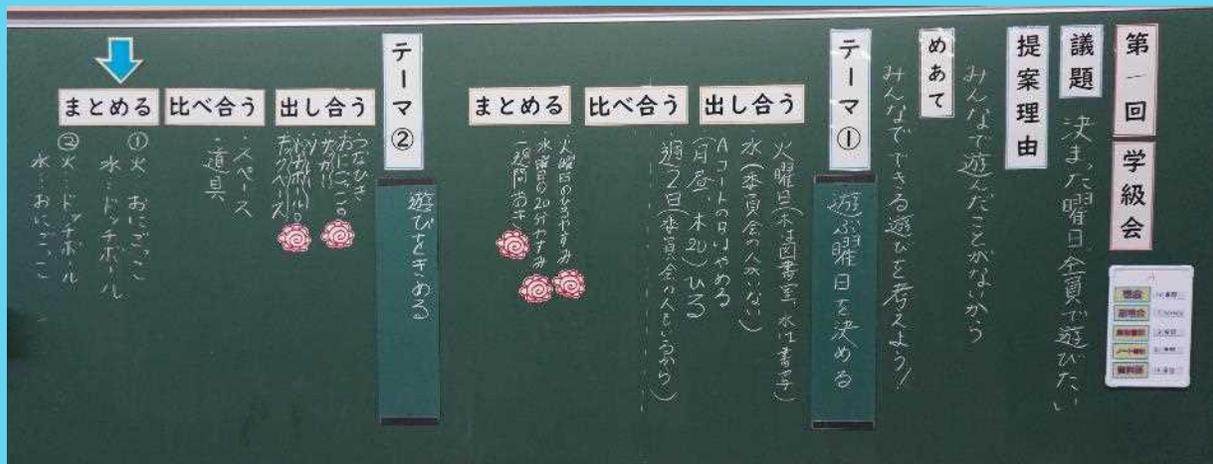
「ゆめ」に向かって自ら学びねほり強く取り組む子

みんなと「なかよく」できるやさしい子

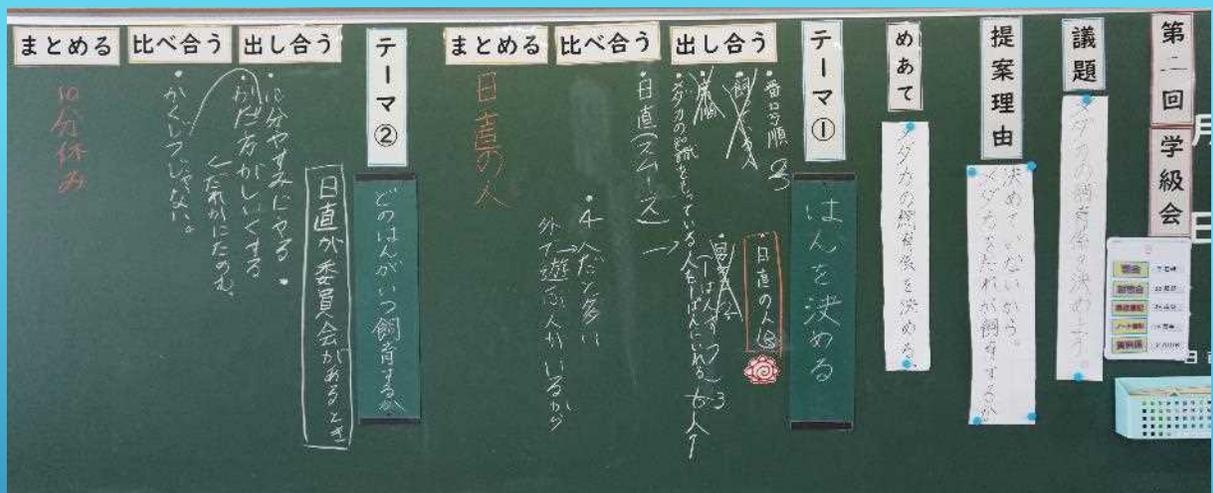
“こころ”も“からだ”もたくましい「げんき」な子

◎本校特別活動 今年度の重点目標①

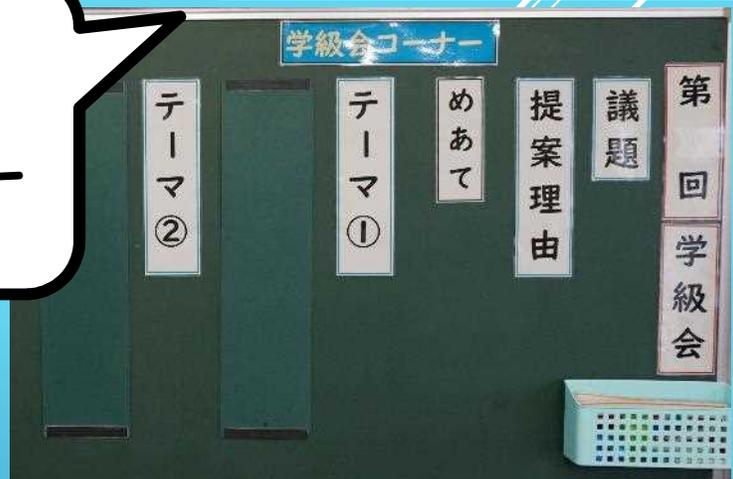
- ・ 集団の一員としてよりよい生活を築こうとする自治的な話し合いの力を育てる。 (計画委員会による話し合い活動)



計画委員会		
A	B	C
司会 10 吉間	司会 7 石崎	司会 9 KALAM
副司会 1 NAYMIN	副司会 22 藤部	副司会 12 小林あ
黒板書記 3 安部	黒板書記 26 山口	黒板書記 4 枝部
ノート書記 21 中村	ノート書記 14 築井	ノート書記 27 山本
資料係 15 菅谷	資料係 2 ADIB	資料係 11 小名
D	E	F
司会 5 若井	司会 6 飯塚	司会 8 大島
副司会 12 小林じ	副司会 14 津目	副司会 17 田村
黒板書記 20 筑比地	黒板書記 16 武田	黒板書記 18 モミイ
ノート書記 29 吉田	ノート書記 23 廣瀬	ノート書記 25 矢島
資料係 24 森	資料係 28 横山	資料係 30 遠達
		資料係 31 HUY



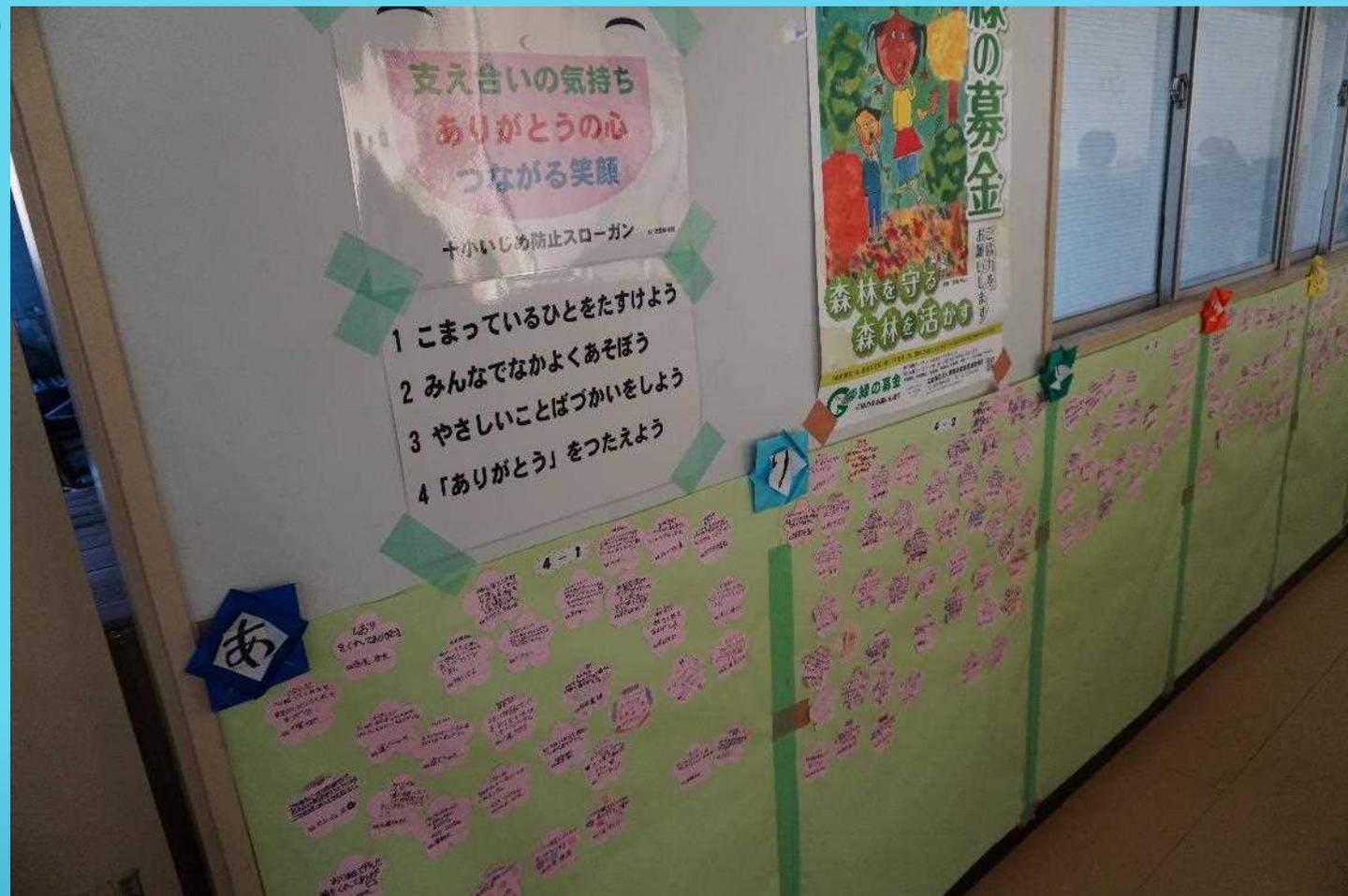
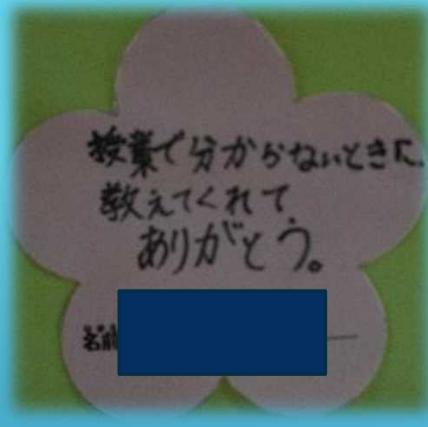
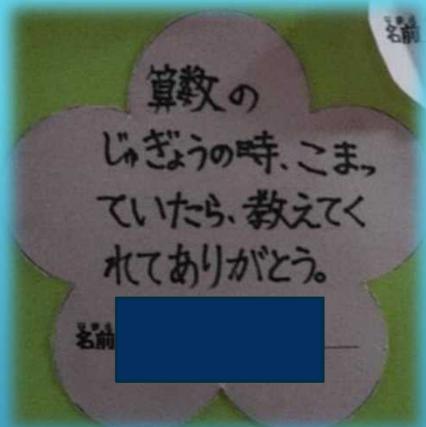
背面黒板の学級会コーナー



◎本校特別活動 今年度の重点目標②

- ・相手の立場を理解し、認め合うことを基本として、望ましい人間関係を育てる。（いじめ防止対策への取組）

ありがとうの花



◎館林市教育委員会・キャリア教育の方針と重点

- ・一人一人の社会的・職業的自立に向け、
必要な基盤となるような能力や態度を育てる教育の推進
- ・組織的、系統的なキャリア教育の推進

I C T 活用能力

※小中連携校・多々良中学校ではI C Tを活用し生徒総会や生徒会役員選挙を実施

「ゆめ」に向かって
自ら学びねばり強く取り組む子

なりたい自分を明確に

I C T 活用

3つの柱

【授業実践】 ～学級活動～

～5年～

「夢」におかって ※学習指導案あり

小学校学習指導要領 特別活動

2 学級活動の内容

(3)一人一人のキャリア形成と自己実現

ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる

意欲や態度の形成

○授業前…指導案検討会
(校内研修部、特別活動部)

○授業

- 1, 夢に関する本時の課題をつかむ
- 2, 今までの自分を振り返る
- 3, 班で「夢の実現」へのアドバイスを送り合う
- 4, 個人目標を決める

○授業後…授業検討会
(校内研修部、特別活動部、参観者)

◎校内研修との関わり

「自分の考えをもち、対話を通して

深く学ぶことができる児童の育成」

～ICTを取り入れた単元・授業の構想と

協働学習を取り入れた指導の工夫～

※対話的に学ぶ児童の姿「高学年」

友達の考えを聞いたり、一人一台端末を用いたりして

様々な情報を適切に集め、自分の考えと比較し協働して

よりよい考えを創り上げている児童。

【ねらい】

一人一台端末を活用した意見の共有を通して、
自分自身のよさや今までの行動の改善点に気づき、
今後の行動について見通しをもち、それを
自主的に実践しようとする態度を養う。

ICTの可能性を追求
→有効性を検討する

1. つかむ（課題の把握）

- 「夢」に関するアンケート結果を提示し
本時の課題をつかむ。

（Google Forms）←ICTの活用

～夢に関する活動を振り返る～

- ・こども宇宙プロジェクト
- ・夢カード
- ・夢についてのインタビューカード など

2. さぐる（可能性への気付き）

○今までの自分を振り返る

（ロイロノートでワークシートを配付）

3. 見付ける（話し合い）

○グループでお互いの「夢の実現」

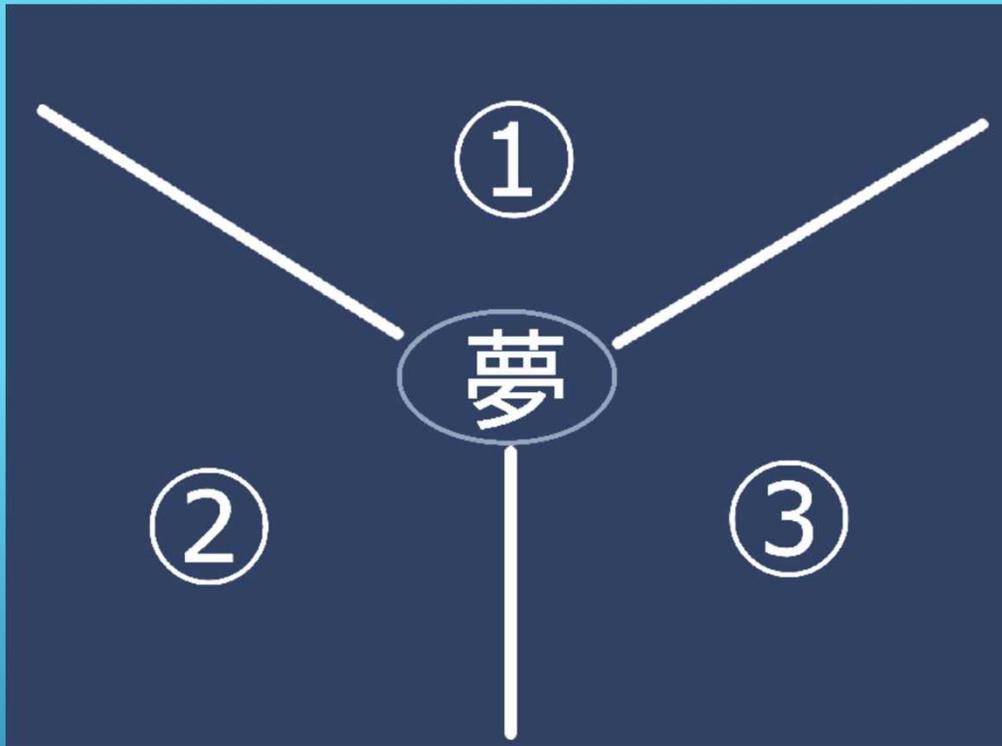
のためのアドバイスを送り合う。

（ロイロノートの共有ノート）

「見付ける」場面でのICT活用

【共有ノートで意見を出し合う】

- ・ロイロノートのシンキングツール
「ウェビング」を活用



- ・ 3人グループ
- ・ ①②③の番号をつける
- ・ 左記の掲示物で各自が書き込む場所を提示

「見付ける」場面でのICT活用

【共有ノートのルール】

~ロイロノート~

- 友達のテキストはいじらない、
重ならないようにする
- 決められた場所・時間だけ
操作する

3人全員が
ノートの全て
を操作できる
のでルールを
作成した。

「見付ける」場面での手立て

【アドバイスのポイント】

- ・ 友達のよいところから考えよう。
 - ・ Aさんは、〇〇なところがステキだから△△ができそうだね。
 - ・ 〇〇な□□になれそうだよ。
- 例) よいところはやさしい
→ファンにやさしいプロ野球選手
- ・ 「〇〇な□□になりたい」〇〇を実現するためにできそうなことを考えよう。
- 例) 食べた人を幸せにする料理人になりたい
→笑顔で接することが大切だから
→普段から笑顔いっぱい過ごす。

アドバイスのポイントを提示することで、様々な考えが書けるようにした。

4. 決める（個人目標の意思決定）

○ 「なりたい自分」

「具体的な個人目標」を決める。

→ 提出箱に提出

（他の友達のものを確認）

～5年生の間にやること・今日決めたこと～

シュートが苦手だからたくさんシュートとの練習をする。ディバラ選手のようにドリブルもうまくしたい。

～5年生の間にやること・今日決めたこと～

諦めずに努力するのが大事。
何度も何度も繰り返しやることも大事。

～5年生の間にやること・今日決めたこと～

1日1回外で体を動かす
動かした後にストレッチをする
食事をしっかり1日3食、食べて
体をじょうぶにする

【振り返り】

A・・・よくできた B・・・できた C・・・もう少し

めあてを考えて、グループの話し合いに参加することができましたか。	<input checked="" type="radio"/> A	<input type="radio"/> B	<input type="radio"/> C
友達のことを考えて意見を言うことができましたか。	<input checked="" type="radio"/> A	<input type="radio"/> B	<input type="radio"/> C
友達のよいところを考えながら聞くことができましたか。	<input checked="" type="radio"/> A	<input type="radio"/> B	<input type="radio"/> C
今後、自分がどうすごしていくか、決めることができましたか。	<input checked="" type="radio"/> A	<input type="radio"/> B	<input type="radio"/> C

～本授業の板書・ICT活用の様子～



～本授業の成果～

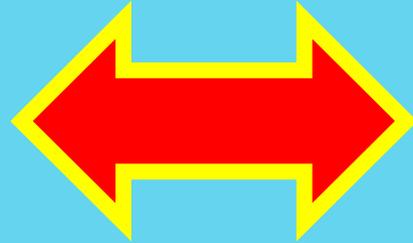
- 共有ノートを活用したためグループの意見が同時に共有できた。
 - 手本がすぐに見られるので、どんな児童も手が止まることなく意見を書くことができた。
- 端末を中心に授業が進められていた。
 - どこでもできる（離れていても）
様々な児童の特性に対応できる（緘黙・言語）
 - 今後のICTの可能性が広がった
- アドバイスを集めたことにより夢の実現に向けた行動目標を具体的に設定することができた。

～本授業での課題～

- 「対話」が全て一人一台端末で行われていた
 - 実際に声を出して伝える場面も必要
(よいところは、直接伝えられた方が嬉しい)
- 全員が前を向いたまま活動していた
 - グループごとに向き合って座り、グループ活動をしているという意識を持たせたほうがよい

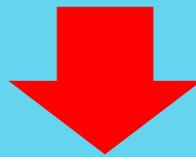
～本授業の総括～

○ICTの新たな可能性を見い出すことができた



○従来型学習のよさを再認識

ICT活用と従来型学習のハイブリッド



授業の**ねらい**を達成するための手立てとしてICTを活用する。
(本授業では、**夢の実現**のための行動目標の設定)

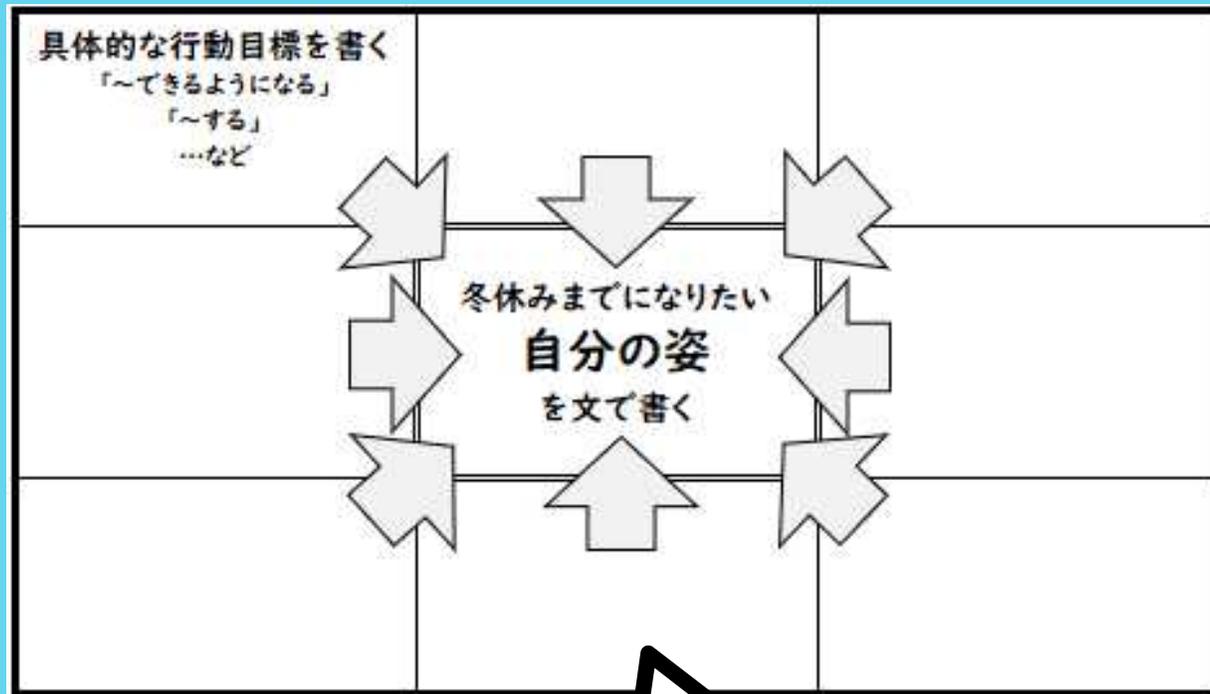
他の実践 6年「2学期」のなりたい自分

2学期のめあて

6年 組 番 名前 _____

学習

生活



マンダラートを活用し、自分のなりたい姿を具体的にイメージさせた。

マンダラートの活用方法を示し、考えが深まるようにした。

【まとめ】

- 3つの柱を中心に実践を重ねている
- 「ありがとうの花」をはじめとして、児童のよさや可能性を引き出している
- 新しいツールであるICT機器を使いこなせるよう積極的に活用している→必要な能力

- △ 実践が途切れないようそれぞれの活動がつながるようにする必要がある
- △ 日常の中でのキャリア教育を充実させていく
- △ 高学年のみ実践が進むのではなく、学校全体でステップアップできる体制作りをしていく



～Finish～

【ご清聴ありがとうございました】

学級活動指導案

令和3年9月22日(水) 第4校時 5年2組(5年2組教室) 指導者 久木原 悠太

1 題材名 夢に向かって

学級活動(3)ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成

2 題材について

(1) 児童の実態(31名)

(2) 題材選定の理由

本題材は、小学校学習指導要領特別活動[学級活動]の2「内容」(3)「一人一人のキャリア形成と自己実現」の「ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成」により設定したものである。内容は、個々の児童の将来に向けた自己実現に関わるものであり、一人一人の主体的な意思決定に基づき、各個人が実践までつなげることをねらいとしている。そのために、自分の得意なことや経験したことを振り返ったり、友達と意見交流をしたりして、自分のよさや可能性、自分自身の成長に気付かせ、なりたい自分を見通し、今の自分が取り組んでいくことを意思決定する。

また、本校の教育目標は「ゆめ なかよし げんき」であり、その中で「ゆめに向かって自ら学びねばり強く取り組む子」の育成に努めている。その教育目標を実現するための一つとして本授業を位置付ける。

3 校内研修との関わり

本校の今年度の校内研修主題は「自分の考えをもち、対話を通して深く学ぶことができる児童の育成」であり、副題は「ICTを取り入れた単元・授業の構想と協働学習を取り入れた指導の工夫」である。また、本校は通常学級18クラス、特別支援学級情緒3クラスと知的2クラスと比較的規模が大きいことや、日本語学級や通級指導教室があり様々な児童が在籍している。そこで、児童の特性から上手く意見を伝えられないなどの多様なニーズに応える合理的配慮の一貫としてICTを対話のツールの一つとし活用していきたい。また、校内研修全体会にて学年ブロックごとに十小の「対話的に学ぶ児童の姿」を定義した。高学年は「友達の考えを聞いたり、1人1台端末を用いたりして様々な情報を適切に集め、自分の考えと比較し協働してよりよい考えを創り上げている児童」とした。この中の「1人1台端末の活用」や「協働してよりよい考えを作り上げる」ということも意識して授業づくりをした。

4 目標

話し合いを生かして、自己の将来のため今何をすべきかを意思決定したことに、自主的、実践的に取り組むことができるようにする。

5 第5学年及び第6学年の評価規準

観点	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことの意義を理解し、自己のよさを生かしながら将来への見通しをもち、自己実現を図るために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことについて、よりよく生きるための課題を認識し、解決方法などについて話し合い、自分に合った解決方法を意思決定して実践している。	現在及び将来にわたってよりよく生きるために、見通しをもちたり振り返ったりしながら、自己のよさを生かし、他者と協働して、自己実現に向けて自主的に行動しようとしている。

6 指導計画

学習過程	○ねらい・学習活動	・主な指導上の留意点	評価の観点		
			知	思	態
事前	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の夢と夢に対する普段の行動を振り返る。 ・夏休み前に、自分の夢に対する気持ちや行動を振り返り「夢カード」の記入をする。その後、保護者に児童の夢に対するメッセージを書いてもらう。 ・夢に向かってどんなことをしているかアンケートに答える。 ・「こども宇宙プロジェクト」への参加を通して、将来についての見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の自分たちの生活から課題を見つけられるように、夢に対する普段の行動がわかるようなアンケートを実施する。 ・こども宇宙プロジェクトの写真撮影の際に、夢の実現のためには何が必要か考えさせ、挙げておく。また、保護者にも何が必要かインタビューし多方面から情報を集めておくことで、本時の導入がスムーズに進むようにする。 	○		

本時	<p>○夢に向かって、今やるべきことをグループ討議を基に、自分自身で意思決定し、自ら行動する態度を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果から、普段の行動を振り返る。 ・こども宇宙プロジェクトの写真撮影の際に考えた、夢の実現のために必要なことを振り返りながら今できていることとできていないこととで整理する。 ・グループで互いの夢を共有し、今やるべきことを考える。(ロイロノート) ・グループ討議を生かし、今後に向けての意思決定をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスの声かけやアドバイスを意識させ、友達や友達の夢を否定するようなことは言わないよう事前にアドバイスのポイントを示した掲示をし、指導する。 ・他者の様々な意見を自分の生活に生かせるよう、グループ内だけにとどまらず、学級全体で共有する。 (ロイロノートで提出箱を作成し、ワークシートを提出させる。) 		○	○
事後	<p>○自分で決めたことを定期的に振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に振り返って自分自身の行動を見直す。(学期末) ・年度末に「夢カード」の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返る時間を学期末に設けることで、夢に対する気持ちを高める。 ・帰りの会で実施している「今日のかがやきさん」でよく実践している友達を賞賛することで、認め合い高め合う雰囲気作りをする。 ・学校全体で行っている「ありがとうの花」の活動から、他者のよいところを見つける力や認め合う良さに気付かせるとともに、他者から認められることで夢の実現に向けた生活への意欲が高まるようにする。 			○

7 本時

(1) ねらい

一人一台端末を活用した意見の共有を通して、自分自身のよさや今までの行動の改善点に気付き、今後の行動について見通しをもち、それを自主的に実践しようとする態度を養う。

(2) 準備

- ・1人1台端末 ・教師機 ・プロジェクター ・アンケート結果の集約 ・夢カード
- ・ワークシート(ロイロノート) ・グループメンバーでの共有ノート(ロイロノートのシンキングツール)

(3) 展開

	児童の活動	指導上の留意点	資料	目指す児童の姿と評価方法
導入 (つかむ) 5分	<p>1. つかむ(課題の把握)</p> <p>○提示された事前アンケート結果を見て、本時の課題をつかむ。</p> <p>○夢に対する意識はどうか、夢の実現に向けて努力できているか振り返り、課題に気付く。</p>	<p>・夢がないとダメということではないことを伝える。ない場合にはどんな大人になりたいかで考えさせる。</p> <p>・こども宇宙プロジェクトの写真撮影の際や、保護者アンケートで挙げておいた、夢の実現のために必要なことを振り返りながら今できていることとできていないこととで整理する。</p>	<p>・現在の自分たちの生活から課題を見つけられるように、アンケート結果をまとめた表をプロジェクターで提示する。</p>	<p>希望や目標をもつことについて考え、夢の実現のため現時点での課題を認識し、解決方法を話し合い、自分に合った解決方法を意思決定している。</p> <p>【思・判・表】 (ワークシート・発言・観察)</p>
<p>めあて 「夢」に向けて、今やるべきことを考えよう。</p>				
展開 (さぐる・見付ける) 25分	<p>2. さぐる(可能性への気付き)</p> <p>○今までの自分の行動で、できていること、できていないことを振り返ったり、「なりたい自分」について願いをもったりする。(5分)</p> <p>3. 見付ける(話し合い)</p> <p>○グループで互いの夢を共有し、今できることややるべきことを出し合う。 (グループ内で共有したロイロノートに書き出していく) (1人につき5分程度)</p>	<p>・振り返ったことがまとめられるワークシートを準備しておく。</p> <p>・グループ討議の際には、アドバイスのポイントを示した掲示をし、友達の夢を否定せず、前向きでやる気になるようなアドバイスをすよう指導する。</p>	<p>・ロイロノートでワークシートを配布する。 (入力するのが難しい児童には、手書きでよいと伝える)</p> <p>・事前にグループのメンバーのみで共有できるようにした共有ノート(ロイロノート)を準備しておく。また、ロイロノートでは、シンキングツール(ウェビング)を使用し、自分がどこに書いてよいのかを事前に伝える。</p>	<p>見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを生かし、他者と協働して自己決定し、自己実現に向けて自主的に行動しようとしている。【態】 (ワークシート・発言・観察)</p>

<p>終末 (決める) 15分</p>	<p>4. 決める (個人目標の意思決定) ○なりたい自分になるために、自分に合った具体的な個人目標(内容や方法)を決める。(8分)</p> <p>○ワークシートを提出箱に提出する。提出されたものを見て、他のグループの意見も確認する。(7分)</p>	<p>・話し合いが活かされるよう、話し合いの中で挙げた意見を参考に考えるよう伝える。また、振り返りの際に、目標を達成し次の目標を立てられるよう、今の自分にできそうな内容で考えさせる。</p> <p>・他者の様々な意見を自分の生活に生かせるよう、友達のワークシートを確認する時間をとり、その後数人に発表させる。 (振り返り)</p>	<p>・提出箱を事前に作成しておく。</p> <p>・授業時間だけ、提出箱の共有を有効にしておく。</p>
-----------------------------	---	---	---